



日産の現実への考察

令和7年1月2日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

日産が外資に食い荒らされることなどは、世界という現実における真実である。これはグローバル化における日本企業への正しい警鐘なのである。

これは企業防衛が資本と政治とともに要求されることを意味するものである。グローバル化はもはや止められない。アベノミクスにおける開国は、すでに現実を戻すことを許さないのである。

これら今後金融の自由化や開放における世界の資本力に対峙することは存在すると考えられる。これらが世界の真実なのである。

これらが企業における資本力と技術力という基盤における統一される世界市場への正しい参加の要求なのである。

これらグローバル化の洗礼は、明らかに国内市場の転換を与えるものである。

これらは背後の世界金融資本の日本への侵略であることは必ず正しいのである。これら世界の真実と現実、新しい現実を国内に与えるものである。これらは世界基準という企業への新たな要求を与えるものであることは正しいと考える。

これらへの解決は、企業が世界の先端トップ基準における企業経営への転換を得る以外ないのである。

これらは企業独立性が企業努力における自己向上を経て、その資本力とともにグローバル基準と対等な自己において新たな世界市場への参加を有することができるのである。

これらは企業の偉大は挑戦である。国内市場に現実化する既存現実と基準から世界と未来という新しい現実への参加を行うことであるからである。

企業経営におけるこれら新しい視点は、飛躍的な企業の飛躍を要求し実現するものなのである。

